

2014（平成26）年度

地域連携センター一年報

津市立 三重短期大学

目 次

地域連携センター事業を振り返って

I	平成26年度 地域連携事業の概要	・・・	1
1	生涯学習機会の提供		
(1)	オープンカレッジ	・・・	2
(2)	地域連携講座	・・・	7
(3)	みえアカデミックセミナー2014	・・・	8
(4)	出前講座	・・・	9
(5)	講座開催一覧	・・・	11
(6)	科目等履修生制度	・・・	13
2	高等学校等との連携		
(1)	高大連携校との高大連携	・・・	14
(2)	一身田中学校図書館ボランティア活動	・・・	17
3	産学官連携の推進		
(1)	株式会社三重銀行及び株式会社三重銀総研との産学連携	・・・	19
(2)	三重短期大学シーズ集「みえたんの種」の活用	・・・	22
4	市政との連携		
(1)	政策研究・研修	・・・	24
(2)	市政との連携講義「自治体行政特論」	・・・	29
(3)	審議会、委員会委員への参画	・・・	31
5	地域の大学との連携		
(1)	三重大学生物資源学部との連携	・・・	40
(2)	三重大学教育学部消費生活科学コースとの連携	・・・	41
6	学生ボランティア活動、地域連携講義の促進による教育の充実		
(1)	地域連携サポーター制度	・・・	43
(2)	津市消防団学生機能別消防団員	・・・	44
(3)	三重短期大学大津波想定避難訓練	・・・	45
II	資料		
1	施設開放	・・・	46
2	三重短期大学地域問題研究所の研究一覧	・・・	48
3	平成26年度三重短期大学出前講座 テーマ一覧表	・・・	51

地域連携センター事業を振り返って

2008（平成20）年4月に地域連携センターが設立されてから7年が経過したが、これまでのセンターの主な活動を振り返り、その成果と課題を確認したい。

本学は1980年代後半から「地域に開かれた大学」をめざしてきたが、地域貢献をより組織的に進めることを目的に設立された当センターは、「地域の抱える課題を常に念頭に置いて、地域社会が求める人材の養成ばかりでなく、産学官連携、自治体政策研究、地域の生涯学習との連携などに取り組むことを通じて、市民文化の向上と地域・産業の活性化、地域社会を担う市民の主体的・実践的な教養の育成に貢献する」という本学の理念に基づいている。

センター設立の最大の成果は、専任職員を配置することができたことであろう。このことにより、教員の事務負担が大幅に軽減され、教員が企画や運営などの業務に十分な時間とエネルギーを割くことができるようになったばかりでなく、多様な地域のニーズをくみ取り、組織的に対応することが可能になった。

センターは、①生涯学習機会の提供、②産学官連携の推進、③市政との連携、④高等学校との連携、⑤地域の大学との連携、⑥地域連携講義、学生ボランティア活動の促進による教育の充実の6つの事業を重点事業として掲げてきたが、いずれの分野においても着実に成果を挙げているように思われる。

生涯学習機会の提供の分野はセンターが最も重点的に取り組んでいる分野である。これまでの取り組みのなかで、①教員の専門分野に関連する最新の情報を提供し、大学の講義の一端を知る機会ともなる「オープン・カレッジ」（年間10講座）、②学外の研究者などの協力を得て行われる「地域連携講座」（年間2講座）、③本学教員が地域に赴く「出前講座」の3つの事業が軌道に乗ってきたように思われる。①、②については、30名という限られた専任教員の負担が偏らないようにするために、概ね3年ローテーション体制により持続的に運営できる体制がとられている。ただし、出前講座については、こちらから提示している講座数に比べ、社会的な認知度はまだまだ低く、今後の広報活動を強化していく必要がある。

市政との連携の分野の中心的な事業である「政策研究・研修」は、本学教員の専門的な知見を活用する点で高等教育機関の特性が最も表れる地域貢献である。この間、毎年2～3本のテーマで実施して来ており、それなりの実績を挙げていると評価できるが、内容的にみると、テーマの偏りが目立ち、また教員の専門分野と行政の現場からのニーズにミスマッチが生じている。今後、この分野のより一層の充実を図るためには、教員が地域の政策課題に関して専門知識を深め、的確な解決策を提示できること、言い換えれば地域研究者としての教員の力量形成が必要である。これは決して一朝一夕に成果が出るわけではないが、大学として、教員の地域研究を促進するような取り組みが必要であろう。

学生ボランティア活動の分野では、図書館ボランティアによる一身田中学校図書館運営協力や「学生機能別消防団」など、特筆すべきいくつかの成果も現れてきている。大学や学生は地域のコミュニティを構成する重要な一員であり、全国の例を見るまでもなく、大学や学生に対して地域の活性化に寄与することが期待する声は強まってきている。

最後に、センターの創設以来、半年間の研修による中断をのぞき、センター長を務めさせていただいたが、本年3月末をもって退任し、後を楠本孝教授にバトンタッチすることとなった。この間の皆様のご協力に感謝するとともに、当センターが三重短期大学と地域とを結ぶ架け橋としていっそう発展することを祈念している。

平成27年9月

I 平成26年度 地域連携事業の概要

地域連携センターを中心に、本学の地域連携の6つの柱のもと、平成26年度は次のような取組を進めた。

三重短期大学地域連携センター

本学では、1952（昭和27）年の開学以来、地域問題の研究や公開講座の開講など地域に開かれた大学づくりを進めてきたが、2008（平成20）年、この地域への貢献、地域との連携を組織的かつより積極的に進めるため地域連携センターを設置し、センター長と事務局に専任職員を配置するとともに、学内には地域連携委員会を上げた。

その際、本学が当面実施すべき地域連携事業の取組を次の6つに整理した。

(1) 生涯学習機会の提供

市民のニーズを把握し、学科の特性に応じて教養的なものからより専門的なものまで多様な地域連携講座や公開講座などの教育プロジェクトを提供するなど生涯学習機会の提供を図る。

(2) 高等学校等との連携

より高いレベルの教育を受けることを希望する高校生の希望に応えるとともに、高校生の学習意欲の喚起や進路選択に資するため、高大連携講座など三重県内の高等学校等との相互の協力・連携事業を推進する。

(3) 産学官連携の推進

教育内容をより充実し、社会の要請に応えることとするため、企業やNPOとの連携を推進するとともに、企業や団体などのニーズに即した受託研究等を推進する。

(4) 市政との連携

津市や地域の自治体が抱える政策課題について、教員と自治体職員が共に調査・研究を行い、課題解決と自治体職員の人材育成を目指す「政策研修」を実施するなど津市が直面している諸課題に対応し、市の発展に資するため、市政のシンクタンクとしての機能の強化を図る。

(5) 地域の大学との連携

教育・研究活動の一層の向上を図り、また、更なる地域社会の発展、貢献のため、地域の大学間の学術交流や協力・連携を強化する。特に、市の4つの大学、短期大学の特性を活かした連携を進めることを目指す。

(6) 学生による地域連携

地域課題を常に意識した教育を追求し、ボランティア活動の促進、フィールドワークの拡充などを通して地域問題への関心の喚起により将来の地域リーダーの育成を目指す。

1 生涯学習機会の提供

本学では、平成19年度から津市元気づくり事業の一環として地域連携講座を開講、また平成24年度より、本学の講義を多くの方に体験していただくことを目的に「オープンカレッジ」、「出前講座」を開設した。

さらに、三重県生涯学習センターによる県下高等教育機関の連携事業「みえアカデミックセミナー」にも積極的に参加し、教育研究の成果を市民に還元している。

また、本学の通常講義の中から受講したい科目を自由に選択して学習することができ、所定の成績を修めると単位認定される科目等履修生制度も多くの利用があった。

(1) オープンカレッジ

市民の方に大学の講義を気軽に体験する事ができるよう、平成26年度もオープンカレッジを開設した。

月1回2講義(8月は1講座)を5か月間、本学教員がアラカルト形式にて実施し、全9講義のうち7講義以上を受講した受講者に修了証書を発行した。

ア 教育とは何か～教育の本質について考えよう～

- ① 開催日時 平成26年7月5日(土) 午後1時30分～午後3時
- ② 会場 32番教室
- ③ 概要 学校や教師に関する話題はマスコミでも取り上げられることが多く、私たちにとって身近なものといえるかもしれませんが、しかし、そもそも教育とはどのような営みか、改めて考えることは少ないのではないのでしょうか。子どもをめぐる状況が大きく変化している今、教育について根源的な部分から考察しました。
- ④ 参加者数 41名
- ⑤ 担当教員 生活科学科 准教授 清道亜都子



イ 記憶のしくみ～心理学の実験を交えながら～

- ① 開催日時 平成26年7月5日(土) 午後3時15分～午後4時45分

- ② 会 場 32番教室
- ③ 概 要 人の記憶は、その働きから感覚記憶、短期記憶（作動記憶）、長期記憶と3つ位に分けられるのですが、なぜそのように分類されるのでしょうか。この講義では簡単なデモンストレーション実験を交えながら、記憶についての心理学的知見を紹介しました。
- ④ 参加者数 40名
- ⑤ 担当教員 学長・生活科学科 教授 東福寺一郎



ウ 住民参加とまちづくり

- ① 開催日時 平成26年8月2日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会 場 32番教室
- ③ 概 要 全国各地で住民参加のまちづくりが取り組まれており、少子高齢化や人口減少の時代にその必要性が問われています。本講座では木造密集地の住環境整備と公営住宅の立替え事業を事例に、コミュニティ形成などに向けた住民主体のまちづくりの大切さについて考えました。
- ④ 参加者数 27名
- ⑤ 担当教員 生活科学科 准教授 小野寺一成

エ 南北問題の環境倫理

- ① 開催日時 平成26年9月6日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会 場 32番教室
- ③ 概 要 気候変動や生物多様性の破壊といった地球規模の環境破壊と深くかかわっているのが南北問題です。北の過剰消費と南の貧困、そして豊かさをめざして開発に邁進する国々の行動が、問題の根源にあります。本講義では、南北問題の現状と歴史的背景を概観し、「環境の倫理」という観点から考えました。
- ④ 参加者数 32名
- ⑤ 担当教員 生活科学科 教授 南 有哲



オ 少年非行と少年法の現在

- ① 開催日時 平成26年9月6日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 32番教室
- ③ 概要 1997年の神戸事件以降、社会の少年に対する見方は大きく変化し、少年法もたびたび改正され、本年4月には第4次の改正法が成立しました。本講では、この間の社会の変化と少年法改正の過程を振り返りつつ、少年非行と少年法の現在について考えました。
- ④ 参加者数 31名
- ⑤ 担当教員 法経科 教授 楠本 孝



カ 地域包括ケアとケアマネジャー

- ① 開催日時 平成26年10月4日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会場 32番教室
- ③ 概要 介護が必要となった時、ケアマネジャー（介護支援専門員）との付き合いが始まります。ケアマネジャーとはどのような人で、何を

してくれるのか。「地域包括ケア」が強く推進される現在、ご家族・ご自身のために介護サービスを利用していくために、その役割を考えました。

- ④ 参加者数 33名
- ⑤ 担当教員 生活科学科 准教授 武田 誠一



キ 雇用・人事の今とディーセント・ワーク

- ① 開催日時 平成26年10月4（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 32番教室
- ③ 概要 フリーター、ニート、偽装請負、派遣切り、ワーキングプア、ブラック企業などは、日本での労働をめぐる問題を表してきた言葉です。しかし、世界の議論は、ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)です。本講座では、今日の雇用や人事の現状を確認し、日本でのディーセント・ワークへの道を考えました。

- ④ 参加者数 29名
- ⑤ 担当教員 法経科 准教授 杉山 直



ク 『憲法改正』をめぐる議論から『憲法』を学び直そう！

- ① 開催日時 平成26年11月1日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会場 32番教室
- ③ 概要 私たちは「憲法」がどのような目的や役割をもつ法なのかについて考える機会が、ほとんどないといってもいいのではないのでしょうか。奇妙なことですが、実は現在の「憲法改正」をめぐる議論にも、この点が決定的に欠けているように思われます。この国の帰趨を決する重要なトピックの原点を学び直しました。
- ④ 参加者数 35名
- ⑤ 担当教員 法経科 教授 三宅裕一郎



ケ TPPと食の安全

- ① 開催日時 平成26年11月1日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 32番教室
- ③ 概要 日本のTPP参加問題は、今日でも賛成・反対が大きく分かれています。その原因のひとつには、徹底した秘密交渉のため正確な情報が伝わらず、影響を推定するしかないという問題があります。今回は身近な生活に関係の深いSPS（衛生植物検疫措置）の観点から、TPP参加の影響を考えました。
- ④ 参加者数 34名
- ⑤ 担当教員 法経科 教授 石原洋介



(2) 地域連携講座

ア 津市のいじめ問題克服の取組～津市いじめ防止基本方針～

- ① 開催日時 平成26年7月19日(土) 午後1時30分～午後4時
- ② 会場 32番教室
- ③ 内容 平成25年9月にいじめ防止対策推進法が施行され、津市は3月に津市いじめ防止基本方針を策定しました。

いじめは、決して許されない行為です。社会が一丸となって、いじめに向かわせない子どもたちを育てていく必要があります。そのために学校、家庭、地域がどのように関わっていくべきなのか、津市いじめ防止基本方針を通して考えました。

- ④ 参加者数 26名
- ⑤ 講師 伊庭正彦・青木修(市教委教育研究支援課)
- ⑥ 担当教員 法経科 准教授 藤枝律子

イ もち小麦の本当の食べやすさを、今知る。

- ① 開催日時 平成26年8月23日(土) 午後3時～午後5時
- ② 会場 41番教室
- ③ 内容 津市で実証実験を実施した「もち小麦」について、その後の食品機能性の研究成果、商品開発の現状、三重県での栽培状況などを学び、もち小麦による津市及び三重県での地域振興を考えました。また、開発商品の試食も行いました。

- ④ 参加者数 61名
- ⑤ 講師 藤田 修三(青森県立保健大学 教授)
後藤 雅司(レストラン「ラ・パルムドール」オーナーシェフ)
山田 和弘(「弁慶うどん」店主)
原田 浩治(津市げんき大学メンバー)

保田 与志彦（「保田商店」代表）

藤田 静子（至学館大学 准教授）

⑥ 担当教員 生活科学科 准教授 駒田亜衣



（3）みえアカデミックセミナー2014 ～知のひろがりそれは希望への一歩～

より高度な学習機会の提供を目指すとともに、県内の各高等教育機関の研究活動を紹介し、高等教育機関への理解を深めてもらうことを目的として、夏季期間に県総合文化センターを会場に各高等教育機関独自の研究テーマを発表する「公開セミナー」と、地域のニーズに応じて高等教育機関が地域に出向く「移動講座」がある。

平成8年に県内4年制大学による「三重6大学公開講座」としてスタートし、平成16年から、県内全ての短期大学、高等専門学校も参画し15の高等教育機関による公開セミナーを「みえアカデミックセミナー」としてリニューアルした。（※担当者会議資料（三重県生涯学習センター作成）等から）

① 開催日時 平成26年7月16日（水）午後1時30分～午後4時00分

② 会場 三重県文化会館 レセプションルーム

③ 内容 講演 演題 コンピュータ・機械・人間・脳科学

～ロボット工学・サイボーグ技術がもたらす変革～

④ 概要 コンピュータや機械制御技術等の融合によるロボット技術の進展はめざましいものがあります。医療や生活支援分野での利用も進む一方で、機械による人間の身体の代替や補助、さらには機械と人体の接続も進んでいます。このような状況下で様々な問題等も指摘されており、本セミナーでは脳科学も交えて、これらの状況や問題について考えました。

⑤ 参加者数 73名

⑥ 担当教員 生活科学科 教授 上山英三

（4）出前講座

本学教員の研究や社会活動のなかから講演可能なテーマを事前に設定し、要望に応

じて地域に出向き、講演・解説などを行う出前講座を2012（平成24）年度に開設した。（内容は「資料」の平成25年度三重短期大学出前講座テーマ一覧表参照）

ア 障がい者福祉を知ってみる（障がい者福祉入門）

- ① 開催日時 平成26年6月13日（金）午後7時30分～午後9時
- ② 会場 阿児アリーナ
- ③ 参加者数 30名
- ④ 担当教員 生活科学科 准教授 武田誠一

イ 自己覚知について

- ① 開催日時 平成26年10月20日（月）午後6時～午後7時
- ② 会場 在宅複合型老人介護施設 天兆園
- ③ 内 容 人を支援する仕事につく際に、自分の性格・思考過程・感情表現の傾向を知ること、つまり「自己覚知」は重要であり、仕事に従事する限り常に行われるべき作業です。高齢者福祉に携わる皆さんと、自己覚知の重要性について実際の場面を想定しながら考えながら、ソーシャルワークの技法を確認しました。
- ④ 参加者数 40名
- ⑤ 担当教員 生活科学科 准教授 北村香織

ウ 在宅療養支援とソーシャルワーク・実践を言語化する意義と方法

- ① 開催日時 平成26年12月7日（日）午前10時30分～午後4時00分
- ② 会場 三重県総合文化センター 文化会館
- ③ 内 容 地域包括ケア推進の流れの中で在宅療養支援において医療ソーシャルワーカーへの期待はより高いものになっています。では、どのような働きが求められているのか、何をすればいいのか、より具体的に講義しました。
実践研究や事例研究には興味があるが、どこから手を付け、まとめたらいいのか、研究するメリットなど、実践研究や事例研究に対する基礎的なポイントを講義と実際の研究事例を使ったワークショップを行いました。
- ④ 参加者数 26
- ⑤ 担当教員 生活科学科 准教授 武田誠一

エ 外国人との共生について

- ① 開催日時 平成26年2月19日（木）午後7時～午後8時30分
- ② 会場 河芸公民館
- ③ 参加者数 100名

- ④ 担当教員 法経科 教授 楠本孝

オ 「健康食品」を考える

- ① 開催日時 平成27年2月22日(日) 午前12時45分～午後2時15分
② 会場 津市ふれあい会館
③ 参加者数 80名
④ 担当教員 生活科学科 教授 伊藤貴美子

カ 落語に学ぶ心理学

- ① 開催日時 平成27年2月28日(土) 午前10時～午前11時30分
② 会場 中央公民館
③ 参加者数 47名
④ 担当教員 学長・生活科学科 教授 東福寺一郎

キ 実験「DNAを見る」

- ① 開催日時 平成27年3月10日(火) 午後3時30分～午後4時30分
② 会場 日生学園第二高等学校
③ 参加者数 30名
④ 担当教員 生活科学科 教授 宇城啓至、同科助教 飯田津喜美

ク 消費税をどうするか

- ⑤ 開催日時 平成27年3月10日(火) 午後3時30分～午後4時30分
⑥ 会場 日生学園第二高等学校
⑤ 参加者数 30名
⑥ 担当教員 法経科 教授 雨宮照雄

ケ 海外での栄養士活動

- ① 開催日時 平成27年3月11日(水) 午後3時30分～午後4時30分
② 会場 日生学園第二高等学校
③ 参加者数 40名
④ 担当教員 生活科学科 准教授 駒田亜衣

コ 障がい者って誰のこと？

- ⑤ 開催日時 平成27年3月11日(水) 午後3時30分～午後4時30分
⑥ 会場 日生学園第二高等学校
⑦ 参加者数 38名
⑧ 担当教員 生活科学科 准教授 北村香織

サ 不法行為制度

- ① 開催日時 平成27年3月12日(木) 午後3時30分～午後4時30分
 ② 会場 日生学園第二高等学校
 ③ 参加者数 36名
 ④ 担当教員 法経科 教授 富田 仁

(4) 講座開催一覧

区分	テーマ	開催日	会場	参加者 (人)
オープン カレッジ	教育とは何か～教育の本質について考えよう～	7月5日(土)	32番教室	41
	記憶のしくみ～心理学の実験を交えながら～	7月5日(土)	32番教室	40
	住民参加とまちづくり	8月2日(土)	32番教室	27
	南北問題の環境倫理	9月6日(土)	32番教室	32
	少年非行と少年法の現在	9月6日(土)	32番教室	31
	地域包括ケアとケアマネジャー	10月4日(土)	32番教室	33
	雇用・人事の今とディーセント・ワーク	10月4日(土)	32番教室	29
	『憲法改正』をめぐる議論から『憲法』を学び直そう!	11月1日(土)	32番教室	35
	TPPと食の安全	11月1日(土)	32番教室	34
地域連携講座	津市のいじめ問題克服の取組～津市いじめ防止基本方針～	7月19日(土)	32番教室	26
	もち小麦の本当の食べやすさを、今知る。	8月13日(土)	41番教室	61
みえアカデミックセミナー	コンピュータ・機械・人間・脳科学 ～ロボット工学・サイボーグ技術がもたらす変革～	7月16日(水)	三重県文化会館レ スプションルーム	73
出前講座 (高大連携 事業を除く)	障がい者福祉を知ってみる (障がい者福祉入門)	6月13日	阿児アリーナ ミ ーティングルーム	30
	自己覚知について	10月20日	在宅複合型老人介 護施設 天兆園	40

	①在宅療養支援とソーシャルワーク②実践を言語化する意義と方法	12月7日	三重県総合文化センター	26
	外国人との共生について	2月19日	河芸公民館2階会議室	100
	「健康食品」を考える	2月22日	津市ふれあい会館	80
	落語に学ぶ心理学	2月28日	中央公民館	47
	実験「DNAを見る」	3月10日	日生学園第二高等学校	30
	消費税をどうするか	3月10日	日生学園第二高等学校	30
	海外での栄養士活動	3月11日	日生学園第二高等学校	40
	障がい者って誰のこと？	3月11日	日生学園第二高等学校	38
	不法行為制度	3月12日	日生学園第二高等学校	36
出前講座 (高大連携 事業)	食を科学的に考えよう	10月31日	相可高等学校	80
	働く前に知っておきたい社会保障のこと	12月17日	みえ夢学園高等学校	81
	六法を引いてみよう。法律用語の基礎知識を身につけよう	2月18日	久居高等学校	10

(6) 科目等履修生制度

科目等履修生制度は、通常講義の中から受講したい科目を自由に選択して学習することができ、所定の成績を修めると単位認定される制度で、本学では平成 8 年度より実施している。

満 18 歳以上を対象に、前・後期で受講生を募って書類審査と面接で選抜する。科目等履修生になると図書館等の施設が本科生と同様に使用可能となる。ただし、入学検定料と 1 単位当たりの費用が必要となる。

平成 26 年度の科目等履修生は、前期に 12 名、後期は 11 名が受講した。

受講科目は下表のとおり英語 I や英会話などの語学系科目から法経科、生活科学科の専門科目まで幅広く 21 科目が選択された。

受講者は、会社等に勤めながら自分のキャリアアップのため知識を得ようとする一方、現在の職や趣味などを更に深めようと関係する科目を履修される方、また、資格取得に備え所要の単位を取得される方など志願理由は様々であった。

(前 期)

科 目	単 位	人 数
生命科学	2	2
政治学原論	4	1
カウンセリング論	2	1
社会福祉論 I	2	1
公的扶助論	2	1
社会保障論 I	2	1
経済入門	2	1
比較文化論	2	2
哲学	2	1
法制史	2	1
刑法 (集中講義)	4	1
教育の基礎理論	2	1
社会福祉論	2	1
数理科学	2	1
産業経済論	2	1
化学	2	1

(後 期)

科 目	単 位	人 数
地理学	2	1
自然と科学	2	1
環境政策論	2	1
経営組織論	2	1
国際経済論	2	2
統計学	2	1
歴史学	2	2
国際関係論	2	1
政治史	2	1
証券論	2	2
社会保障論	2	1

(通 年)

科 目	単 位	人 数
英会話	2	2
英語 I	2	3
英語購読	2	2
老人福祉論	4	1

2 高等学校等との連携

本学では、より高いレベルの教育を受けることを希望する高校生の希望に応えるとともに、高校生の学習意欲の喚起や進路選択に資するため、高等学校との相互協力や連携事業を推進する「高大連携」を、地域連携事業のひとつの柱に位置づけている。

本年度は、三重連携協定を締結している、三重県立亀山高等学校、相可高等学校、津商業高等学校、久居高等学校及びみえ夢学園高等学校との「高大連携」の取組を実施した。

そして本年度は、高大連携協定に新たに三重県立みえ夢学園高等学校と、三重県立久居高等学校との二校と取組を更に充実できるよう、高大連携に関する協定を締結した。

また、高等学校を対象とした連携以外にも、市内の中学校との附属図書館による図書指等の事業を通じた連携にも取組んでいる。

(1) 高大連携校との高大連携事業

高大連携校と、それぞれの協定に基づき、次の事業を行った。本学見学会では大学の概要説明、講義体験、施設見学、また先輩学生との意見交換などを行った。

ア 亀山高等学校の三重短期大学見学会

- ① 日 時 平成26年6月30日(月) 午後2時～午後4時
- ② 対 象 生徒4名、進路指導教員1名



(先輩学生のスピーチ)

イ 津商業高等学校の三重短期大学見学会

- ① 日 時 平成26年7月2日(水) 午後2時～午後4時
- ② 対 象 生徒4名、保護者、進路指導教員1名



ウ みえ夢学園高等学校の三重短期大学見学会

- ① 日 時 平成26年8月25日(月) 午後2時00分～午後3時30分
- ② 対 象 生徒2名、保護者2名、進路指導教員1名

エ 久居高等学校の三重短期大学見学会

- ① 日 時 平成26年12月15日(月) 午後2時00分～午後3時30分
- ② 対 象 生徒9名、進路指導教員1名

オ みえ夢学園高等学校訪問(授業解放)

- ① 日 時 平成26年9月16日(火) 午前10時40分～午前12時10分
- ② 内 容 支援技術(1)
- ③ 人 員 雨宮地域連携センター長、生活科学科准教授 北村香織、事務担当

カ 相可高等学校との出前講座

第1回(会場:相可高等学校)

- ① 日 時 平成26年10月31日(金) 午後1時40分～午後3時30分
- ② 講 師 生活科学科 助教 飯田津喜美
- ③ 内 容 食を科学的に考えよう
- ④ 対 象 相可高等学校1・2年生80名



第2回（会場：三重短期大学）

- ① 日時 平成26年12月3日（水）午前8時50分～午前12時10分
- ② 講師 相可高校 食物調理科 教諭 松岡曜子
相可高校 食物調理科 教諭 園部かしこ
- ③ 内容 クリスマス用ロールケーキの作り方
- ④ 対象 三重短大生活科学科食物栄養学専攻2年生 46名



キ みえ夢学園高等学校への出前講座

- ① 日時 平成26年12月17日（水）午後1時30分～午後3時00分
- ② 講師 法経科 准教授 藤枝律子
- ③ 内容 働く前に知っておきたい社会保障のこと
- ④ 対象 同校全学年生徒 81名

ク 久居高等学校への出前講座

- ① 日 時 平成27年2月18日(水)午後1時30分～午後3時
- ② 講 師 法経科 准教授 藤枝律子
- ③ 内 容 六法を引いてみよう。法律用語の基礎知識を身につけよう
- ③ 対 象 同校2年生10名

(2) 一身田中学校図書館ボランティア活動

附属図書館は、平成17年10月から、一身田中学校の要請もあって、附属図書館司書と図書館ボランティアの有志学生により、書架整理、館内ディスプレイ、本の装備、おすすめ本の紹介等の図書館支援を行っている。

その他、市内小・中学校図書館担当教諭等を集め、図書館連携講座を開催している。

(主な活動内容)

- 4月 ・クラブ体験を通じた図書館ボランティアの勧誘活動等
- 5月 ・一身田中学校ボランティア会議出席
 - ・第1回ボランティア会議
 - ・一身田中学校への訪問や活動者へのミーティングを通じた活動準備
 - ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：・火・水・木・金曜日(11名)
- 6月 ・第1回津市子ども読書活動推進会議 出席
- 8月 ・三重短期大学連携講座を開催 8月18日(月)午前10時～午前11時30分
内容：館内ディスプレイ作り (市内小・中学校図書館担当教諭、PTA・ボランティア等75名が参加)
 - ・一身田中学校図書担当教諭と打ち合わせ
 - ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：月・火・木・金曜日(4名)
 - ・社会教育実践交流広場「地域と関わる学生」[児童・生徒向け体験コーナー]に参加 8月27日(水) 午後1時～午後4時
 - 内容：本に親しもう～楽しいポップアートカードとしおり作り～←追加
- 10月 ・第2回ボランティア会議
 - ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：水・木・金曜日(9名)
- 11月 ・部長・新部長会議
- 1月 ・第3回ボランティア会議
 - ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：水・木曜日(3名)
- 2月 ・第2回津市子ども読書活動推進会議出席



(社会教育実践交流広場「地域と関わる学生」児童・生徒向け体験コーナーの様子)

3 産学官連携の推進

平成19年1月、本学と株式会社三重銀行及び株式会社三重銀総研は、学術研究の振興とその成果の地域社会への活用並びに組織運営に関する協働を推進するために産学連携を強化し、相互の発展及び地域の発展に貢献することを目的とする「産学官連携に関する包括協定」を締結した。

今年度も、この協定に基づき、学生を対象とした小論文コンクールを引き続き開催したほか、三重銀総研より講師を招いた「企業論」の開講等の連携事業を実施した。

また、シーズ集「みえたんの種」を活用し本学の地域連携の取組みの周知、広報に努めた。

(1) 株式会社三重銀行及び株式会社三重銀総研との産学連携

産学包括協定に基づき、次の事業を実施した。

ア 三重短期大学・三重銀総研主催小論文コンクール

株式会社三重銀行、株式会社三重銀総研における地域貢献、本学における教育研究、及び地域貢献の推進を目的に、小論文コンクールを実施した。

① 趣旨

三重短期大学と三重銀総研の地域貢献を目的とする産学連携推進事業の一環として、学生の新鮮な知性・感性を活かした小論文コンクールを実施する。

② テーマ

『“いのち”と“くらし”の未来を考える』

③ 応募資格

三重短期大学在学学生（科目等履修生も含む）。共同執筆による応募も可

④ 応募規定

- ・ 応募は1人（共同執筆の場合は1グループ）1作品のみ
- ・ 日本語で書かれた未発表のものに限る
- ・ 文字数は4,000字程度

⑤ 募集期間

平成26年6月30日～平成26年10月6日

⑥ 選考委員

委員長 三重短期大学 学長 東福寺一郎

副委員長 (株)三重銀総研 代表取締役副社長 筒井真

委員 三重短期大学 法経科長 楠本孝

委員 三重短期大学 生活科学科長 伊藤貴美子

委員 (株)三重銀総研調査部 主任研修員長 別府孝文

⑦ 応募作品（タイトル名）

- ・ ストレスが心身に及ぼす影響
- ・ ブラック企業が引き起こす社会問題
- ・ 防災より減災 ～自己意識の変革～

- ・女性の社会進出と少子化問題
- ・学童保育について
- ・スウェーデンからみる日本
- ・三菱自動車と安心・安全
- ・パナソニックと労働
- ・正社員とパートタイム労働者の賃金格差
- ・高齢者の所得格差
- ・人口減少問題について
- ・社会保障一体改革と税
- ・日本の教育
- ・発展途上国と先進国の水の大切さ
- ・ドメスティック・バイオレンスの未然防止策
- ・出生前診断での命の選択
- ・死との向き合い方
- ・ワーキングプアについて
- ・子を蝕む親
- ・地域包括ケアシステムについて
- ・生涯学習社会
- ・スマートフォンの普及による影響
- ・子どもの貧困と地域社会
- ・少子高齢化社会の問題について
- ・地域活性化における大学の役割について
- ・“日本に食料危機は起きるのか？～“いのち”と“暮らし”の未来を考える～”
- ・年金制度問題の検討
- ・暮らしの中で考える

(全 28 作品)

⑧ 選考結果

賞	氏名	タイトル名	学科
最優秀賞	田中 大樹	子どもの貧困と地域社会	法経科第2部 2年
優秀賞	太田 聖果	女性の社会進出と少子化問題	法経科第1部 経商コース 2年
	三井 実乃里	死との向き合い方	法経科第1部 経商コース 2年
	平田 理絵	地域活性化における大学の役割について	法経科第2部 2年

佳作	小木 裕美香	学童保育について	法経科第1部 経商コース 2年
	寺山 舞	正社員とパートタイム労働者の賃金格差	法経科第1部 経商コース 2年
	林 真衣	社会保障一体改革と税	法経科第1部 経商コース 2年
	松村 美沙	出生前診断での命の選択	法経科第1部 経商コース 2年

⑨ 表彰式 ※本学「大学祭」の中で

日時 平成26年11月8日（土）午後4時～午後4時45分

場所 三重短期大学 体育館

表彰者 三重短期大学学長 東福寺一郎

株式会社 三重銀総研 代表取締役副社長 筒井真

司会 株式会社 三重銀総研 取締役調査部副部長 先浦宏紀

三重短期大学法経科 准教授 藤枝律子



(表彰式)

イ 三重銀総研より講師を招いた講義

① 講義科目 企業論

(専修第二(経済・経営)分野 前期 火曜日9-10限目 受講者数38名)

② 講師 山川敏

(株式会社三重銀総研 コンサルティング部リーダー 主任コンサルタント)

③ 講義のねらい

株三重銀総研から講師を招き、日々の企業コンサルから得た経験をもとに、会社を運営していくうえで大切なこと、経営革新の考え方や起業の視点について、社会人になってからも役立つような実践的な内容で講義いただいた。

④ 授業内容

- ・ 未来を予測し仮説をたてる (1)起業の意義と外部環境把握
- ・ 同 (2)外部環境把握
- ・ お客様の満足を考える
- ・ 事例研究
- ・ 起業家の成功要因を考える (3つの側面からの考察)
- ・ 自分研究 (自分の特長、やってみたいこと)
- ・ 経営理念の立て方 (基本理念と行動理念)
- ・ マーケティングと経営戦略 (1)意義
- ・ 同 (2)勝つための仕組みづくり
- ・ 決算書の見方と資金繰り
- ・ ビジネスプランの作成 等

(2) 三重短期大学シーズ集「みえたんの種」等の活用

教員の研究業績や社会的活動を載せたシーズ集「みえたんの種」や地域連携センターのホームページを活用して、本学の地域連携の取組みの周知、広報に努めた。

※ 法経科雨宮照雄教授 (地域連携センター長) の内容

名前・職名 雨宮照雄 (あめみや てるお) 法経科 教授

授業科目 財政学、自治体行政特論、地方財政論、経済入門

キーワード 地方財政、地方自治

研究テーマ 財政学、地方財政論

研究テーマの応用例

- ・ 公会計制度の改正への対応
- ・ 財政情報の公開と市民にわかりやすい財政指標の開発
- ・ 財政健全化法に対応する財務管理手法の開発

最近の研究業績

[著書]

- ・ 「四日市市史通史編 現代」 共著 四日市市 2001 年
- ・ 「経済思想史事典」 経済学史学会編 丸善書店 2000 年
- ・ 「四日市市史通史編 近代」 共著 四日市市 1999 年

[論文]

- ・「社会保障と税一体改革成案を読む」『地方自治みえ』第 230 号(2011 年 8 月)
- ・「財政健全化法から自律的な財政運営へ」『地方自治みえ』第 207 号(2009 年 9 月)
- ・「税源移譲に伴う個人住民税の調整控除について」『地研通信』第88号(2008 年 1 月)
- ・「夕張市の破綻と財政再建制度」『地研通信』(三重短期大学 NO.85 2007 年
- ・財政健全化法から自律的な財政運営へ「地方自治みえ」第 207 号(2009 年)
- ・社会保障と税一体改革成案を読む「地方自治みえ」第 230 号(2011 年)

最近の社会的活動

- ・2012 年 講演「消費税をどうするか」(三重短期大学オープンカレッジ 2012)
- ・2011 年 短期大学評価委員会委員(大学基準協会 現在に至る)
- ・2009 年 短期大学評価委員会財務分科会委員(大学基準協会 現在に至る)・

一言アピール

マクロ的な国と地方の税・財政システムばかりでなく、ミクロの地方自治体においても財政情報の公開、財務管理システムの確立など住民自治の視点に立って自己責任に基づいた自立(自律)的な財政運営が求められています。公務員・議員・住民が協働して地方財政のあり方を模索する場をつくり、私も一研究者として共に考えていきたいと思っています。

4 市政との連携

本学では、従来から津市立の公立短期大学として地域振興等の諸課題について、教員の各種審議会等への参画や市教育委員会主催の市民向け講座への参加を通じて、専門的な知識や経験を活用し、市政との連携を進めてきた。

今年度は、市政の諸課題について本学教員と職員が共に調査、研究する「政策研究・研修」を一つのテーマで取り組んだほか、津市立の特性を活かし、津市を一つの事例として、市長をはじめ職員によるリレー講義で自治体行政の現状や課題等について考える「自治体行政特論」を引き続き開講した。

(1) 政策研究・研修

① 目的

地方分権が進められるなか、地方財政の厳しさや市民意識の高まりを受け、津市をはじめ多くの地方自治体で「経営型」の行政運営、効率的行政運営が進められている。

一方、大学など高等教育機関では、従来からの教育、研究に加え、地域への貢献、地域との連携が強く求められるようになり、三重短期大学においても、地域のシンクタンク機能の充実を図ることを目指し市政との連携を地域連携の一つの柱としている。

政策研究・研修は、津市など地方自治体等が抱える諸課題をテーマに、当該職員と本学教員が共に調査・研究し、関係諸課題の解決にあたりるとともに、より戦略的かつ先進的な政策事務事業等の推進が図れる職員の政策形成能力を養うことを目的とする。

② 研修テーマ、指導教員及び研修生

テーマ1

地方自治体におけるいじめの防止に係る取り組み

指導教員：法経科 准教授 藤枝律子

NO	氏名	所属
1	植松 久美子	健康福祉部援護課主査
2	竹島 知耶	津市健康福祉部こども支援課主事
3	伊庭 正彦	津市教育委員会事務局教育研究支援課生徒指導・保健担当主幹
4	峯田 康一	津市教育委員会事務局人権教育課人権教育担当副主幹・指導主事

テーマ2

効果的な特定保健指導の検討

指導教員：生活科学科 准教授 駒田亜衣（研究代表者）

生活科学科 助手 中井晴美

NO	氏名	所属
1	青 百合恵	津市健康福祉部健康づくり課保健指導担当副主幹
2	谷口 香里	津市健康福祉部健康づくり課保健指導担当副主幹
3	木下 なつこ	津市健康福祉部保険医療助成室保険担当副主幹(兼) 健康づくり課保健指導担当副主幹
4	中北 なをみ	津市健康福祉部保険医療助成室保険担当副主幹(兼) 健康づくり課保健指導担当副主幹

③ 研修期間

平成26年6月20日から平成27年2月24日まで

④ 主な研修内容（「研修計画」参照）

- ・ 関係施設等調査
- ・ 先進地視察等
- ・ 研修成果とりまとめ

テーマ毎に分かれた研修生グループは、指導教員による指導の下、関係施設等の調査やデータ解析等を等を行い、具体的施策への反映を視野に入れた調査・研究を行い、その成果を取りまとめた。

⑤ 研究・研修計画

<p>〔テーマ1〕</p> <p>地方自治体におけるいじめ防止に係る取組み</p> <p style="text-align: right;">担当教員 法経科 准教授 藤枝 律子</p>	
<p>テーマ解説</p>	<p>「いじめ」は、1980年代以降、学校の病理現象として、その防止・解決のため、学校関係者が取り組んできた課題であるが、時代の変遷と共に変容し、深刻化し、有効な対策が見出せないまま今日に至っているというのが現状である。しかし、大津いじめ自殺事件等を契機として、いじめ問題に対して社会的関心が高まってきていることから、国においても本格的な対策の必要性が認識され、2013年6月には、いじめ防止対策推進法が成立した。この法律には多くの問題点が残されてはいるが、いじめが社会全体で取り組まねばならない喫緊の課題であることが明らかにされたものである。</p> <p>この法律に基づき、地方自治体は、「いじめ防止基本方針」を策定するように求められており、津市においても、基本方針の作成が進められているところである。そこで、本計画では、先進的な地域における具体的な事例研究や、津市における実態調査等を通じて、いじめ問題解決に向けた総合的な対策をいかに高めていくかを研究・考察する。</p>
<p>研究計画等</p>	<p>①子どもたちを取り巻く環境の現状調査</p> <p>学校・地域・家庭における子どもたちの現状について、アンケートやヒアリングに基づいて把握する。</p> <p>②いじめ対策の事例研究</p> <p>地域・学校でどのような取り組みが行われているか、先進的な学校・地域の視察等により事例研究をする。</p> <p>③津市におけるいじめ防止対策の検証</p> <p>教育委員会の関わり方、教員の研修等を含めた、いじめ防止対策の実効性確保・向上に関する検討・考察を行う。</p>
<p>備考</p>	

<p>〔テーマ 2〕</p> <p>効果的な特定保健指導の検討</p> <p style="text-align: center;">担当教員 生活科学科 准教授 駒田 亜衣 生活科学科 助手 中井 晴美</p>	
<p>テーマ解説</p>	<p>担当教員らはこれまで、特定健康診査（以下「特定健診」という。）の受診者データの解析を実施してきた。これらの解析結果をもとに、受診対象者への情報提供紙の作成、複数都市の受診データの比較解析、保健指導実施者の年次推移などの検討を行ってきた。</p> <p>平成 25 年度の政策研究においては、県内都市の特定保健指導の成果について詳細な解析を行い、保健指導実施者の改善程度について明らかにした。この研究を通して研究生とともに、各地域における生活習慣病予防の指導のあり方や有効性等を検討してきたが、データ解析に加え、具体的な保健指導の取り組みについてさらに考察すべきであるとの課題が出された。</p> <p>そこで、本年度の政策研究・研修では、これまでに実施された特定保健指導の結果や評価の検討に加え、保健指導の実施状況について、さまざまな都市における具体的な指導の取り組みを把握・検討する。こうした情報をもとに、今後、各都市における重点を置くべき指標や、地域の特性に合わせた効果的な指導方法について考察する。</p>
<p>研究計画等</p>	<p>① 各都市における保健指導状況の把握</p> <p>これまでに実施された各都市の特定保健指導の状況について、取り組みや成果を把握する。また、他地域の先行研究報告を検索し、保健指導の評価や実施状況などについても把握する。</p> <p>② 今後の特定保健指導の在り方についての考察</p> <p>①に基づき、重点を置くべき指標や効果的な指導方法など、今後の指導の在り方について考察する。</p> <p>③ 公衆衛生学会への参加</p> <p>11 月に栃木県で開催される公衆衛生学会に参加し、全国の特定保健指導の状況を学ぶ。津市の共同研究結果については発表を予定している。</p>
<p>備考</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本政策研究の実施に当たり、青森県立保健大学健康科学部栄養学科 山田真司教授を共同研究分担者とする。 ・今年度の政策研究・研修では、新たなデータ解析は実施せず、すでに解析された結果を考察する。

⑥ 成果報告会

- ・日 時 平成27年2月24日（火）午後2時30分～午後3時30分
- ・場 所 三重短期大学管理棟 2階 演習室1
- ・内 容 研修目的等の説明、成果発表、研修内容に関する質疑応答
- ・主な参加者

健康福祉部長、保険医療担当理事、援護担当参事(兼)援護課長、健康医療担当参事(兼)健康づくり課長、保険医療助成課長(兼)国民健康保険竹原診療所長、こども支援課長、教育研究支援課長、人権教育課長、学長、地域連携センター長、学生部長、事務局長ほか



(成果報告会の様子)

(2) 市政との連携講義「自治体行政特論」

津市を一つの題材に地方行財政に対する学生の理解を深めることを目的として、津市の市長をはじめ課長級等の職員のリレー講義形式で実施する「自治体行政特論」を平成12年度より開講しており、平成26年度は次の内容で実施した。

当講座は、教室での講義だけでなく市議会の傍聴や福祉施設や環境関係の施設見学なども実施して地方行政の理解を深めている。

- ① 講義科目 自治体行政特論 (共通科目 後期 月曜日9-10限)
- ② 担当教員 法経科 教授 雨宮照雄
- ③ 受講者数 69名

回	実施日	講義科目(キーワード)等	講師等
1	4月7日(月)	開講オリエンテーション	法経科 教授 雨宮 照雄
2	4月14日(月)	津市の概要	法経科 教授 雨宮 照雄
3	4月21日(月)	自治体経営	市長 前葉 泰幸
4	4月28日(月)	津市の教育について	教育委員会事務局学校教育課長 森 昌彦
5	5月19日(月)	福祉行政について	健康福祉部援護担当参事(兼)援護課長 前田 達
6	5月26日(月)	環境講演	環境部長 稲垣 巧
7	6月2日(月)	津市関連施設見学	
8	6月6日(金)～ 9日(月)	津市議会傍聴	
9	6月16日(月)	まちづくりと都市計画	都市計画部次長 荒木 忠徳
10	6月23日(月)	商業振興施策 津市の観光振興について	商工観光部商業振興労政課長 藤牧 和弘 商工観光部観光振興課長 岸田 慶仁
11	6月30日(月)	津市の農業振興施策の概要	農林水産部農林水産政策担当 参事(兼)農林水産政策課長 伊藤 順通

12	7月7日(月)	津市の政策 ～総合計画後期基本計画～	政策財務部政策課長 倉田 浩伸
13	7月14日(月)	スポーツの力	スポーツ振興担当参事(兼)ス ポーツ振興課長 武川 明広
14	7月16日(木)	津市の財政について	政策財務部財政課調整・財政担 当主幹 岡 則幸
15	7月28日(月)	学生成果の発表及び講評	法経科 教授 雨宮 照雄



(前葉市長による講義)

(3) 審議会、委員会委員への参画

津市や周辺自治体が直面している諸課題について、本学教員の専門的な知識や経験を活かし、各種審議会や委員会等へ参画し市政との連携を図った。

本学教員の今年度の審議会、委員会等への参画状況は次のとおり

氏名	委嘱先	委嘱依頼内容	期間又は期日
雨宮照雄	三重県出納局	三重県政府調達苦情検討委員会委員	H26. 4. 1～ H28. 3. 31
雨宮照雄	三重県環境生活部	三重県史編集委員	承認日 (H26) ～ その任が終了する日
雨宮照雄	公益財団法人大学基準協会	平成 26 年度短期大学評価委員会 短期大学財務評価分科会主査	H26. 4. 1～ H27. 3. 31
雨宮照雄	公益財団法人大学基準協会	平成 26 年度短期大学評価委員会 短期大学改善報告書検討分科会委員	H26. 4. 1～ H27. 3. 31
雨宮照雄	公益財団法人大学基準協会	短期大学評価委員会委員	H27. 4. 1～ H29. 3. 31
飯田津喜美	三重県水産物消費拡大促進協議会	三重県おさかな料理コンクール審査員	H 26. 9. 22
飯田津喜美	津市子育て子育て支援システム地域運営協議会	津市子育て子育て支援システム地域運営協議会委員	就任日～ H 27. 3. 31
石原洋介	一般社団法人三重県病院協会	「T P P と食の安全」栄養・給食研修会講師	H 26. 10. 25
石原洋介	三重県農林水産部	三重県地方卸売市場運営協議会委員	H 26. 7. 1～ H 28. 6. 30
石原洋介	国立大学法人三重大学	「国際金融論/特殊講義」「国際金融論」非常勤講師	H 27. 4. 10～ H 28. 3. 31
宇城啓至	医療法人(社団)長島中央病院	老年科診療非常勤医師	承認日 (H26) ～H 27. 3. 31
宇城啓至	三重県立看護大学	「形態機能学Ⅰ」、「形態機能学Ⅱ」 非常勤講師	H 26. 4. 1～ H 26. 9. 30
小野寺一成	津市農林水産部	津市農業振興対策協議会委員	委嘱日 (H26) より 2 年間

小野寺一成	津市都市計画部	津市建築審査会委員	H 26. 4. 1～ H 27. 12. 31
小野寺一成	津市健康福祉部	津市福祉有償運送運営協議会委員	H 26. 4. 1～ H 27. 3. 31
北村香織	津市都市計画部	津市地域公共交通活性化協議会委員	H26. 4. 1～ H28. 3. 31
北村 香織	放送大学学園	放送大学非常勤講師（私たちの生活と公的扶助）	H 26. 12. 27 H 26. 12. 28
木下誠一	鳥羽市	鳥羽市都市計画審議会委員	H24. 7. 1～ H26. 6. 30
木下誠一	三重県健康福祉部	「老人保健福祉施設整備事業事前審査会」委員	就任日～ H26. 7. 31
木下誠一	松阪市都市政策部	松阪市景観アドバイザー	H25. 11. 1～ H27. 10. 3
木下誠一	三重県県土整備部	三重県開発審査会委員	委嘱日～ H26. 9. 13
木下誠一	鈴鹿市都市整備部	鈴鹿市景観審議会専門部会員ならびに審査部会員	承認日～ H26. 12. 31
木下誠一	三重県環境部	三重県自動車廃物認定委員会委員	委嘱日～ H27. 11. 30
木下誠一	三重県健康福祉部	老人保健福祉施設整備事業事前審査会委員	委嘱日(H 26)から1年間
木下誠一	三重県公共事業総合推進本部	三重県公共事業評価審査委員会委員	H 26. 4. 1～ H 28. 3. 31
木下誠一	三重県県土整備部	四日市北警察署建築設計業務委託プロポーザル方式技術審査委員会有識者意見聴取会委員	H 26. 7. 16～ H 27. 3. 31
木下誠一	鳥羽市建設課	鳥羽市都市計画審議会委員	H26. 7. 1～ H28. 6. 30
木下誠一	三重県県土整備部	三重県開発審査会委員	H26. 9. 14～ H28. 9. 13
木下誠一	鈴鹿市都市整備部	鈴鹿市景観審議会専門部会員	H27. 1. 1～ H28. 12. 31

楠本孝	津市教育委員会生涯学習課	津市青少年問題協議会委員	H24. 10. 1～ H26. 9. 30
楠本孝	津市市民部市民交流課	津市犯罪のない安全・安心なまちづくり推進委員会委員長	H25. 3. 27～ H27. 3. 27
楠本孝	公益財団法人大学基準協会	短期大学評価分科会評価委員	H27. 4. 1～ H29. 3. 31
駒田亜衣	三重県津保健所	津地域栄養管理ネットワーク研究会委員	H26. 9. 29～ H27. 9. 28
清道亜都子	三重大学	平成26年度三重県教員免許状更新講習連絡協議会更新講習講師 連絡協議会必修講習	H26. 6. 1～ H27. 3. 31
竹添敦子	三重県情報公開課	三重県情報公開審査会委員	H24. 6. 1～ H26. 5. 31
竹添敦子	鈴鹿亀山地区広域連合	鈴鹿亀山地区広域連合情報公開審査会委員 鈴鹿亀山地区広域連合個人情報保護審査会委員	H25. 10. 1～ H27. 9. 30
竹添敦子	鈴鹿市総務部	鈴鹿市情報公開審査委員	H25. 10. 1～ H27. 9. 30
竹添敦子	鈴鹿市総務部	鈴鹿市個人情報保護審査委員	H26. 1. 15～ H28. 1. 14
竹添敦子	津市津図書館	津図書館「文学講座」講師	H27. 1. 17
竹添敦子	岐阜市立女子短期大学	岐阜市立女子短期大学外部評価委員	委嘱日(H26)～ H27. 3. 31
竹添敦子	放送大学学園	放送大学非常勤講師(「日本婦道記」 考察)	H26. 12. 6 H26. 12. 7
竹添敦子	三重県戦略企画部	三重県情報公開審査会委員	H26. 6. 1～ H28. 5. 31
武田誠一	一般社団法人新潟県介護支援専門員協会	平成26年度介護支援専門員実務研修指導者連絡会	H26. 11. 28
武田誠一	三重県医療ソーシャルワーカー協会	三重県医療ソーシャルワーカー協会研修会講師	H27. 2. 8

武田誠一	三重県児童館連絡協議会	平成 26 年度「児童厚生員等研修会」 講師	H27. 2. 13
武田誠一	学校法人新潟福祉医療学 園日本こども福祉専門学 校	「保健医療サービス」非常勤講師	H26. 4. 1～ H27. 3. 31
武田誠一	社会福祉法人津市社会福 祉事業団	津市社会福祉事業団評議員	H26. 6. 1～ H27. 6. 9
武田誠一	新潟青陵大学	「看護管理学特論Ⅱ」非常勤講師	H27. 10. 1～ H28. 3. 31
武田誠一	津市市民部	津市人権施策審議会委員	H27. 1. 10～ H29. 1. 9
武田誠一	津市市民部	津市人権施策審議会委員	H27. 1. 10～ H29. 1. 9
武田誠一	学校法人 皇學館	「公的扶助論」非常勤講師	H27. 4. 1～ H28. 3. 31
田中里美	三重県総務部	三重県公益認定等審議会委員	H24. 7. 1～ H26. 4. 30
田中里美	三重県総務部	三重県公益認定等審議会委員	H26. 5. 1～ H29. 4. 30
田中里美	桑名市総務課	桑名市情報公開・個人情報保護審査 会委員	H24. 12. 6～ H26. 12. 5
東福寺一郎	三重県教育委員会	三重県社会教育委員	H24. 6. 1～ H26. 5. 31
東福寺一郎	三重県国体準備課	第 7 6 回国民体育大会三重県準備 委員会委員	H24. 8. 31～委員 会目的達成まで (H30)
東福寺一郎	三重県環境生活部	三重県男女共同参画審議会委員	H24. 6. 25～ H26. 6. 24
東福寺一郎	社会福祉法人津市社会福 祉事業団	津市社会福祉事業団評議員	H25. 6. 10～ H27. 6. 9
東福寺一郎	津市市民部男女共同参画 室	津市男女共同参画審議会委員	H25. 6. 17～ H27. 6. 16
東福寺一郎	亀山市教育委員会	亀山市生涯学習推進会議委員	委嘱日～ H27. 3. 31

東福寺一郎	桑名市市民安全部	桑名市男女共同参画審議会委員	H26. 2. 1～ H28. 1. 31
東福寺一郎	津市政策財務部	津地区地域審議会委員	H26. 4. 1～ H28. 3. 31
東福寺一郎	三重県教育委員会事務局	平成26年度社会教育関係者の交流の場づくり事業 地域力活性化指導者研修公民館職員等研修会講師	H26. 11. 18
東福寺一郎	放送大学学園	放送大学非常勤講師（心理学実験3）	H26. 10. 25 H26. 10. 26
東福寺一郎	津市国際交流協会津市部	津市国際交流協会・津市部理事	H26. 4. 1～ H28. 3. 31
東福寺一郎	三重県教育委員会	三重県社会教育委員	H26. 6. 1～ H28. 5. 31
東福寺一郎	東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会顧問	H26. 6. 5～ H32. 9. 30 (公短協会長就任期間中)
東福寺一郎	亀山市市民文化部	亀山市男女共同参画審議会委員	H27. 2. 10 H29. 2. 9
東福寺一郎	公益財団法人日本高等教育評価機構	「短期大学評価判定委員会」委員	H27. 4. 1～ H29. 3. 31
東福寺一郎	亀山市 教育委員会	亀山市生涯学習推進会議委員	H27. 4. 1～ H29. 3. 31
富田 仁	桑名市総務課	桑名市情報公開・個人情報保護審査会委員	H26. 12. 6 ～ H28. 12. 5
富田 仁	名古屋市立大学大学院	「民法1」、「民法2」非常勤講師	H27. 4. 1～ H28. 3. 31
長友薫輝	津市障がい福祉課	津市地域自立支援協議会委員	H24. 5. 1～ H26. 4. 30
長友薫輝	津市介護保険課	津市介護保険事業等検討委員会委員	H24. 10. 1～ H26. 9. 30
長友薫輝	津市市民部人権課	津市人権施策審議会委員	H24. 12. 14 ～ H26. 12. 13

長友薫輝	津市市民部人権課	津市人権施策審議会委員	H24. 12. 14～ H26. 12. 13
長友薫輝	日本公衆衛生学会総会学術部会事務局	第 72 回日本公衆衛生学会総会学術部会事務局	H25. 6. 1～ H25. 10. 25
長友薫輝	公益財団法人日本医療総合研究所	日本医療総合研究所 評議員	H25. 4. 1～ H28. 6. 30
長友薫輝	公益財団法人日本医療総合研究所	日本医療総合研究所 研究・研修委員会委員	H25. 6. 1～ H28. 6. 30
長友薫輝	多気郡福祉有償運送等運営協議会	多気郡福祉有償運送等運営協議会委員	H25. 4. 1～ H27. 3. 31
長友薫輝	三重県健康福祉部	三重県障害者自立支援協議会委員	委嘱日から 2 年間
長友薫輝	松阪市介護高齢課	松阪市高齢者保健福祉計画等策定委員会委員	委嘱日から 2 年間
長友薫輝	津市社会福祉協議会	津市社会福祉協議会理事	H26. 1. 16～ H28. 1. 15
長友薫輝	公益社団法人松阪地区医師会松阪市	「在宅医療連携に関する勉強会」講師	H26. 10. 24
長友薫輝	三重県健康福祉部	三重県聴覚障害者支援センター指定管理者選定委員会委員	承認日～ H26. 9. 31
長友薫輝	四日市市市民文化部	四日市市内 8 地区市民センターが実施した地域活性化事業の評価	承認日 (H26) ～ H27. 5. 31
長友薫輝	津市介護保険課	津市介護保険事業等検討委員会委員	H26. 10. 1～ H28. 9. 30
長友薫輝	学校法人皇學館	「社会保障論」非常勤講師	H26. 4. 1～ H27. 3. 31
長友薫輝	津市健康福祉部	津市地域自立支援協議会委員	H26. 5. 1～ H28. 4. 30
長友薫輝	社会福祉法人津市社会福祉協議会	第 2 次津市地域福祉活動計画推進委員	H26. 6. 1～ H28. 5. 31
長友薫輝	公益財団法人日本医療総合研究所	日本医療総合研究所 理事	H26. 6. 21～ H28. 6. 30
長友薫輝	松阪市健康ほけん部	松阪市地域包括ケア推進会議委員	H26. 7. 16 ～ H28. 7. 15

長友薫輝	三重県健康福祉部	三重県社会福祉審議会委員	H26. 7. 1～ H29. 6. 30
長友薫輝	名城大学 経営本部	「地域福祉論」非常勤講師	H27. 4. 1～ H27. 9. 13
長友薫輝	大谷大学 総務部	「社会福祉調査論」非常勤講師	H27. 4. 1～ H27. 9. 17
長友薫輝	佛教大学生涯学習部	「地域福祉論Ⅰ・Ⅱ」、「保健医療政策論」非常勤講師	H27. 4. 1～ H28. 3. 31
長友薫輝	学校法人 皇學館	「社会保障論」非常勤講師	H27. 4. 1～ H28. 3. 31
藤枝律子	三重県情報公開課	三重県個人情報保護審査会委員	H24. 6. 25～ H26. 6. 24
藤枝律子	三重県地域連携部	本人確認情報の保護に関する審議会委員(再任)	H24. 6. 25～ H26. 6. 24
藤枝律子	桑名市総務課	桑名市情報公開・個人情報保護審査会委員	H24. 12. 16 ～ H26. 12. 5
藤枝律子	社会福祉法人津市社会福祉協議会	津市社会福祉協議会文書公開審査会委員	H25. 2. 1～ H27. 1. 31
藤枝律子	三重県総務部	三重県収用委員会委員	H26. 1. 1～ H27. 12. 31
藤枝律子	津市都市計画部	津市建築審査会委員	H26. 1. 1～ H27. 12. 31
藤枝律子	全国公平委員会連合会東海支部	全国公平委員会連合会東海支部事務研修会講師	H26. 5. 13
藤枝律子	社会福祉法人三重県社会福祉協議会	三重県福祉サービス運営適正化委員会委員	委嘱日(H26)～ H28. 6. 25
藤枝律子	津市教育委員会	津市いじめ問題対策連絡協議会委員	委嘱日(H26)から2年間
藤枝律子	津看護専門学校	「関係法規」非常勤講師	H26. 10. 6～ H27. 1. 26
藤枝律子	桑名市総務課	桑名市情報公開・個人情報保護審査会委員	H26. 12. 6～ H28. 12. 5
藤枝律子	鈴鹿市都市整備部	鈴鹿市建築審査会委員	H26. 4. 1～ H28. 3. 31
藤枝律子	三重県戦略企画部	三重県個人情報保護審査会委員	H26. 6. 25～ H28. 6. 24

藤枝律子	三重県地域連携部	本人確認情報の保護に関する審議会委員	H26. 6. 25～ H28. 6. 24
藤枝律子	三重県農林水産部	三重県水源地域の森林の保全に関する 検討委員会委員	H26. 7～ H28. 7
藤枝律子	桑名市 市長公室	桑名市職員研修講師	H26. 7. 9 H26. 7. 16
藤枝律子	社会福祉法人津市社会福祉協議会	津市社会福祉協議会文書公開審査会委員	H27. 2. 1～ H29. 1. 31
藤枝律子	三重県環境生活部	三重県私立学校審議会委員	H27. 21～ H31. 1. 31
藤枝律子	鈴鹿市 総務部	鈴鹿市情報公開審査委員	H27. 4. 1～ H27. 9. 30
藤枝律子	鈴鹿市 総務部	鈴鹿市個人情報保護審査会委員	H27. 4. 1～ H28. 1. 14
藤枝律子	いなべ市企画部	いなべ市情報公開・個人情報保護審査会委員	H27. 4. 1～ H29. 3. 31
藤枝律子	桑名・員弁広域連合	桑名・員弁広域連合情報公開審査委員会委員	H27. 4. 1～ H29. 3. 31
南 有哲	津市環境部	津市環境基本計画推進市民委員会委員	H25. 10. 9～ H30. 10. 8
三宅裕一郎	名張市 市民部・総務部	名張市情報公開審査会委員	H25. 7. 1～ H27. 6. 30
三宅裕一郎	伊賀南部環境衛生組合	伊賀南部環境衛生組合情報公開審査会委員 伊賀南部環境衛生組合個人情報保護審査会委員	H25. 7. 1～ H27. 6. 30
三宅裕一郎	三重県教職員組合中勢高支部	支部教育講座講師	H26. 6. 28
三宅裕一郎	放送大学学園	放送大学非常勤講師（日本の憲法）	H26. 11. 8 H26. 11. 9
三宅裕一郎	名古屋市立大学大学院	「現代人権論」非常勤講師	H27. 4. 1～ H27. 9. 30
三宅裕一郎	名古屋市立大学	「日本国憲法」、「法学1」非常勤講師	H27. 9. 24～ H28. 3. 31

村井美代子	津市津図書館	津市図書館協議会委員	H24. 7. 1～ H26. 6. 30
村井美代子	津市津図書館	「図書館講座」講師	H27. 2. 28
村井美代子	津市教育委員会	津市図書館協議会委員	H26. 7. 1～ H28. 6. 30
村井美代子	三重県 戦略企画部	三重県情報公開審査会委員	H27. 4. 1～ H28. 5. 31
茂木陽一	松阪市教育委員会	長谷川家資料調査指導委員	H25. 6. 28～ H30. 3. 3
森岡 洋	津市農林水産物利用促進 協議会	「津産津消・食の彩発見フェア」 専門チーム	H27. 2. 8
山川和義	公益財団法人愛知県労働 協会	労働法長期講座「労働時間・休日・ 休暇について」講師	H26. 9. 19
山川和義	三重県労働委員会	三重県労働委員会個別労働関係紛 争あっせん員	H26. 5. 9～ H28. 4. 30
山川和義	公益財団法人愛知県労働 協会	労働法基礎講座講師「働く人が知っ ておきたい労働法」	H26. 7. 8・10・11
山川和義	三重県環境生活部	三重県男女共同参画審議会委員	H27. 3. 16～ H29. 3. 15

5 地域の大学との連携

三重大学との間で生物資源学部の練習船「勢水丸」を活用した環境学習や、教育学部消費生活科学コースと本学食物栄養学専攻との学生が中心市街地の店舗を利用した連携事業などを実施した。

(1) 三重大学生物資源学部との連携

ア 練習船「勢水丸」を利用した海洋環境等の調査体験

月 日 平成26年6月7日(土)

内 容 三重大学生物資源学研究科附属練習船「勢水丸」を活用し、大学間連携の一環として海洋環境等の調査体験を行った。

昨年続き、生活科学科で環境ゼミを担当する南有哲教授を中心に乗船計画の検討を進め、同船の環境計測機器を用いた海洋観測等を行うこととし、学内募集を行ったところ、同ゼミを中心に学生、教員、職員合わせて23名の参加が得られた。

当日は、同船の基地である松阪港から伊勢湾のほぼ中央部まで、途中、ベントスネットという器具を用いた生物採取調査を行いながら航走した。

昼食後、午後からはCTDという機器等を用いた海洋観測調査や海泥の採取実験等を行った。



(勢水丸と)



(船内の説明を受ける学生)



(海洋生物の観察)



(採取した海泥)

イ 農林体験セミナー

自然環境や農林業に対する理解を深めることを目的に、三重大学の講義「共通セミナー」に本学学生も参加し、生物資源学部の農場や演習林での講義・実習・体験学習を行った。参加した学生は宿泊所に泊まり、三重大学の学生とも交流を深めた。

① 農場コース【土は生きている】

月 日 平成26年8月25日（月）～27日（水）

内 容 三重大学生物資源学研究科との連携事業（開放授業）として同研究科附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設農場等において、「土は生きている」をテーマに、地域特産農産物などに関する知識の習得やイネの収穫、伊勢茶の加工、うどん作りなどを行った。

② 演習林コース【森は生きている】

月 日 平成26年9月10日（水）～12日（金）

内 容 三重大学生物資源学部附帯施設演習林において、「森は生きている」をテーマに、天然生林・二次林などに関する知識の習得や人工林の土砂災害調査、野生動物の夜被害の見学、森林環境調査などを行った。

(2) 三重大学教育学部消費生活科学コースとの連携

- ・三重短期大学と三重大学の連携による「街の駅だいまん（大門）」を利用した学生カフェ『Café HONO BUONO』（カフェ ほのぼーの）

月 日 平成26年12月20日（土）

会 場 津市大門大通り商店街 「街の駅だいまん（大門）」

内 容 三重大学との大学間連携の一環として、三重大学教育学部消費生活科学コースと連携して、「街の駅だいまん（大門）」で1日限定の学生による『Café HONO BUONO』を出店した。

三重短期大学生生活科学科食物栄養学専攻の学生11名と、三重大学教育学部消費生活科学コース（吉本敏子教授）の学生8名が協議を進め、本年度5回目の出店となった。

地域のコミュニティとなるカフェの出店を通じ、三重大学消費生活科学コースでは、企画・広報や消費者の立場、商店街の役割など消費生活に関する実習、三重短期大学食物栄養学専攻ではランチセット、デザートセットなどのクリスマスに合わせた食べ物を提供する実習を行った。



(接客の様子)



(調理の様子)



(前葉津市長が学生を激励)



(ランチセット)

6 学生による地域連携

本学では、およそ700人の学生がそれぞれの目的を持って勉学に励みながら、サークル活動や大学行事を通して短期大学生活を送っており、この学生の短期大学生活を通しての地域との連携を地域連携の主体の一つとして掲げている。

本年度「地域連携サポーター」制度に29名の学生の登録があり、このサポーターを中心に、地域の様々なイベントへの学生参加や地域清掃のボランティア活動などに取り組んだ。

また、本学学生が津市消防団学生機能別団に入団し、消防団員として様々な訓練を受けるなどの取組を行った。本年度の団員数は65名であった。

(1) 地域連携サポーター

三重短期大学地域連携センターでは、地域連携活動やボランティア活動の情報を希望者に提供する地域連携サポーター制度を実施しており、登録学生数は29名であった。

今年度は、一身田寺内町・環濠・本山境内清掃や、本学周辺道路等の清掃、放課後子どもクラブにおける学習支援、また三重県を通して募集される「学生」×「地域」カフェのイベントスタッフとしても活動した。



(一身田寺内町・環濠・本山境内清掃)

(2) 津市消防団学生機能別団員

同団は平成25年度に三重県下初となる学生機能別団として発足し、本学学生22名が任命された。同団員は、消防講演会等における支援及び広報を行う火災予防活動、災害時における避難所での応急救護、物資配布などの支援などの避難所での活動を行う。

また、本年度も引き続き募集し、新入生42名が新たに任命され、津市夏期訓練や出初式などの訓練や消防署が主催する防災啓発イベントに参加した。



(辞令交付式)



(夏期訓練)



(屋内消火栓の使用方法を学ぶ)



(救急救命講習)

(3) 三重短期大学大津波想定避難訓練

近年中に発生が危惧される南海トラフ巨大地震による津波による被害が、本学の所在地域でも予想されることから、学生、教職員のほか地元自治会及び老人会合わせて約240名が参加し、高台の避難所である三重県総合文化センターまでの徒歩による避難訓練を実施した。

学内では、三重県防災危機管理部防災企画・地域支援課から派遣された防災啓発車による地震体験を行った。

また、今年度は市消防本部職員の協力を得て、学生機能別団がAEDの使用や人工呼吸などの救急救命の実演を行った。

- ① 日時 平成26年5月8日(木)午前10時～午後1時
- ② 場所 三重短期大学及び三重県総合文化センター (知識の広場)



(学生、教職員、地域住民が参加)



(救急救命の実演)



(徒歩による避難訓練)



(訓練講評)

Ⅱ 資料

1 施設開放

本学では、「地域に開かれた大学」づくりを積極的に推進するために、教育・研究に支障のない限り、大学施設を地域に開放し、住民の皆さんが利用できるように努めている。

(1) 図書館

ア 概要

開館日	月曜日～金曜日
開館時間	開講日（講義がある日）…8：30～21：00 休講日（講義がない日）…8：30～17：00
休館日	土曜、日曜、休日、年末・年始（12月29日～翌年1月3日）、毎月月末、その他館長の定める日。また、1月と7月は、利用不可
利用資格	20歳以上の津市在住・在勤・在学者

イ 月別一般登録者数及び閲覧者数

年月	登録者数	閲覧者数
平成26年4月	4	1
5月	3	2
6月	3	2
7月	0	3
8月	16	2
9月	0	0
10月	4	1
11月	1	0
12月	1	0
平成27年1月	0	0
2月	0	2
3月	3	1
合計	35	14

(2) 体育施設（体育館、テニスコート）

ア 概要

開放日	1月5日から12月27日までの間における土、日及び祝日		
開放時間	9:00~21:00		
使用料 (別途、夜間 照明料要)	体育館	9:00~18:00	1時間につき1,000円
		18:00~21:00	1時間につき1,500円
	テニスコ ート	9:00~18:00	1時間につき100円(一面につき)
		18:00~21:00	1時間につき150円(一面につき)
利用条件	事前に、津市に在住、在勤、又は在学する者10人以上で構成された団体で登録が必要。先に「開放施設使用団体登録申請書」を提出し登録のうえ「開放施設許可申請書」にて申込み		

イ 月別登録団体数及び利用日数

年月	登録団体数	利用日数	
		体育館	テニスコート
平成26年4月	2	6	0
5月	1	9	0
6月	2	8	0
7月	1	6	0
8月	0	6	0
9月	2	6	0
10月	0	8	0
11月	0	6	0
12月	0	6	0
平成27年1月	0	5	0
2月	1	8	0
3月	0	3	0
合計	9	78	0

2 三重短期大学地域問題研究所の研究一覧

地域問題研究所では、地域社会の発展、本学の教育・研究の発展に寄与することを目的に研究員（専任教員）が自身の専門分野に近い地域社会に関わる諸問題を調査研究している。

今年度は、次のような研究が行われた。

研究員名	研究テーマ	研究概要
田中 里美	ファンドに支配された企業の経営分析 ～不公正ファイナンスの問題を中心として～	近年、ファンドに支配された企業が多くみられる。例えば、アデランスはスティールパートナーズの支配のもとで経営不振におちいった。昭和ホールディングスは、APFファンドの支配のもとで多額の現金預金が出た状態になっている。カイジョー株式会社はフェニックスキャピタルの支配のもと多額の借金の返済を行い、事業規模が縮小した。他にもファンドに支配された企業は多くあり、その中で多くの問題が生じている。ファンドに支配された企業の中で起こっている問題を会計的側面から分析する。こうした研究結果が、中部地区の企業でも参考になると考える。
駒田 亜衣	三重県に伝わる郷土料理からみる味の特性とその背景について一味噌と醤油を中心として	三重県を北勢、中・南勢、伊賀、志摩、東紀州の5つの地域に分け、現在も残っている郷土料理の味付けについてそれぞれの特徴を明らかにする。調味料は味噌と醤油を中心とし、県内5地域だけでなく、近隣府県でも聞き取り調査を実施し、関連や相違点を探る。また、過去の文献等から判る歴史的背景とも併せて味の特性について明らかにする。
杉山 直	東海地区におけるコミューティユニオンの労使関係機構に関する研究	コミューティユニオンは数多くの労働者の個人紛争解決を解決してきているが、同じ職場に複数以上の組合員がユニオンに加入することによって、「分会」を組織するユニオンもある。そして、分会を組織したユニオンは分会の労働条件の改善のために、経営者と交渉をしている。しかしながら、その交渉のあり方は、それぞれのユニオンで異なっている。そこで、ユニオンにおける労使交渉の現状を確認し、「新しい労働運動」であるユニオン運動における労使関係機構のあり方について検討したい。

茂木 陽一	近代マビキ慣行の比較研究	三重県における近代マビキ慣行の分析から抽出した、検証方法を島根県に適用して、近代マビキ慣行における共通性と差異性を明らかにする。史料素材として、山陰中央新報を中心とした地方新聞記事を利用する。
三宅 裕一郎	アメリカ合衆国による「対テロ戦争」と日本の各セクターへの影響	2011年5月、国際テロ組織・アルカイダの頭目とされてきたオサマ・ビンラディンが、アメリカ特殊部隊によって殺害された。もともと、その後も国際テロによる犠牲は減少するどころか、むしろ新たな暴力の連鎖を生み出している。そして、このようなアメリカによる軍事戦略は、アメリカの国内経済の疲弊から、強力な同盟国と位置づける日本の各セクター（自衛隊、自治体、民間企業）のバックアップを今後ますます不可欠なものとしていくことであろう。本研究では、ますます緊密化する日米安保体制の相手国であるアメリカの「対テロ戦争」の一局面に光をあてその立憲的統制並びに法的統制の可能性を明らかにしていくと共に、そうしたアメリカの軍事戦略に対する防波堤としての憲法9条の可能性について検証していきたい。
北村 香織	津市における公共交通の役割とあり方～すみやすいまちづくりの為に	三重県は都道府県別自家用車の100世帯当たり保有台数が全国12位であり、県庁所在地である津市においても車での移動を念頭においた街のつくりになっている。つまり、車が運転できないものにとっては暮らしにくい。津市は山間部を含めた広範囲を行政区域とするため、地域ごとの特徴も異なるが、それでもすみやすいまちを目指して公共交通を含めたまちづくりのビジョンが必要であろう。今年度は、津市の抱える移動の問題について分析し、考察したい。
雨宮 照雄	①市町村合併の財政分析 ②自治体財政分析手法の開発	①三重県の市町村合併が財政運営にどのような影響を与えたのかを検証していく。②従来、決算統計をベースに実質収支比率、経常収支比率、実質公債費比率などの指標を用いて行われてきた自治体財政分析と財務諸表に基づく財政分析とを整理し、統一的な自治体財政分析手法を提示したい。

長友 薫輝	皆保険体制による医療保障の現状と課題	2013年12月に成立したいわゆる「社会保障改革プログラム法」等により、社会保障の解体などが危惧されている。こうした状況下において、皆保険体制による医療保障はどのような影響を受ける可能性があるのか、またどのような医療保障が望ましいのかを地域医療調査、国民健康保険に関する調査を進める準備を図る。
楠本 孝	戦前・戦中期の外国人管理法制について	外国人登録法の前身となる戦前・戦中期の外国人管理法制の研究を通して、戦後の外国人登録法制定の意義を検討する。
長友 薫輝	住民がすすめる地域政策づくりの実践交流	地域の自治組織機能の低下が顕著となっている一方で、旧来の自治組織をはじめ市民活動団体等がともに主体となって地域づくりや地域政策づくりを図り実践する例がみられる。こうした団体の実践報告等をもとに地域政策づくりの交流を進めたい。

3 平成26年度 三重短期大学出前講座 テーマ一覧表

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
1	落語に学ぶ心理学	落語に題材をとりながら、心理学的なテーマをパワーポイントなどを用いてお話しします。テーマとしては、記憶、親子、男女、組織と集団があります。この中から1つのテーマをお選びください。	学長 東福寺一郎	
2	男女共存社会のすすめ	「共存社会」とは相手の存在を否定することなく、互いにそれぞれが望む生き方を受けとめ、その実現に向けて支えあう、少なくとも邪魔をしない社会であると考えます。 男女共同参画もその根底において「共存」の感覚が必要です。	学長 東福寺一郎	
3	「見る」ことの不思議	私たちは外界から与えられた刺激を受け身的にとらえてものを見ているわけではなく、無意識のうちにしろ、主体的、能動的に「見よう」としています。そのことをさまざまな視覚体験や簡単な実験を通じて学びます。	学長 東福寺一郎	高校生 向け
4	地方分権改革と地方自治	地域住民にとっても重要な「地方自治」のあり方を、近年実施されてきた地方分権改革の動向と絡めて考えます。	法経科 教授 立石芳夫	
5	生活保障のための政治行政システム	本来、政治や行政は、国民の社会生活を支えるためにありますが、近年、その不十分さが指摘されています。 「生活保障」という言葉をもとに、国民生活を支えるための政治行政のビジョンについて考えます。	法経科 教授 立石芳夫	
6	政治とは何か、行政とは何か	「政治」や「行政」とは何か、まずは政治学・行政学の立場から基本のお話をし、そのうえで、日本など各国が抱えている主な課題をとりあげ、将来社会について考えます。	法経科 教授 立石芳夫	高校生 向け
7	外国人との共生について	入管法など外国人の法的地位に関する法制度を解説し、外国人の生活実態調査から見えてくることを通して、外国人との共生の在り方を考えます。	法経科 教授 楠本孝	
8	裁判員制度について	裁判員制度の概要を解説し、その問題点を検証します。 より良い制度にするために、どんな改善点があるかを一緒に考えます。	法経科 教授 楠本孝	高校生も 対応可
9	少年非行について	巷間言われる少年非行の増加、凶悪化、低年齢化は本当か？ 犯罪統計を基に検証します。	法経科 教授 楠本孝	
10	「憲法」ってどんな法？	社会の授業ではよく目にしても、日常生活を送る中でなかなか身近に感じるできない「憲法」。でも、「憲法」は、私たちが「人間として」生存していくために重要な役割を果たしているのです。 具体例を通じて、考察します。	法経科 教授 三宅裕一郎	高校生も 対応可

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
11	憲法 9 条の現実的な意義	<p>「平和主義」を否定する人はほとんどいないと思います。</p> <p>また、どこかが攻めてきたときのための「必要最小限度の実力」の準備も大方の偽らざる本音だと思います。</p> <p>この 2 つの視点から、現代における憲法 9 条の意義について考察します。</p>	法経科 教授 三宅裕一郎	高校生も 対応可
12	「憲法改正」について考える	<p>日本国憲法が制定されて 64 年。「古くて時代に適合しなくなった憲法は変えるべき」という声もよく聞きます。</p> <p>でも、1 度も「憲法改正」が行われなかったのはなぜなのでしょう？</p> <p>「憲法改正」ということの真の意味について考察します。</p>	法経科 教授 三宅裕一郎	高校生も 対応可
13	信託制度	<p>信託という言葉は、信託銀行や投資信託というような形で耳にすることがあるかと思います。近年、信託法が改正され、ますますその重要度は高まっている状況にあります。</p> <p>信託法の基礎的理解を目的に、信託関連の事件等を踏まえ信託制度の説明紹介をいたします。</p>	法経科 教授 富田 仁	
14	不法行為制度	<p>不法行為制度は、日常生活において大変重要な制度です。この制度は権利や利益を侵害された被害者の保護を目的としております。具体的には、医療過誤、名誉棄損、景観侵害、等の事件において適用されています。</p> <p>不法行為制度とはどのようなものかといった視点から、実際の事件を紹介し、説明をしたいと思います。</p>	法経科 教授 富田 仁	
15	民法第 3 条第 1 項の「出生」について	<p>人が物を売買したり、相続財産を取得する場合などには、権利能力といったものがなければなりません。そして、民法第 3 条第 1 項では、人は出生によりこの権利能力を取得することを規定します。この規定に従うと未だ生まれてない胎児は、この権利能力を持ってないということになります。</p> <p>民法上胎児はどのような扱いをうけているのか、事例を挙げながら考えます。</p>	法経科 教授 富田 仁	高校生 向け
16	行政判例に見るまちづくり	<p>土地区画整理事業計画や市街地再開発計画など、私たちの住んでいる街にはいろいろなまちづくりに関する行政計画があります。</p> <p>これらの計画はどのような法的性質を持ち、どのように裁判の場で争われているか。これまでの裁判例を素材に、考えます。</p>	法経科 准教授 藤枝律子	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
17	こどものための条例	こどもの権利条約を 1994 年に日本が批准してから、幾つかの自治体ではそれを実効性あるものにするために子どもの権利条例づくりをしています。 条例づくりから見えてくる、今の子どもたちが置かれている状況、地域の取り組み等を考えます。	法経科 准教授 藤枝律子	
18	六法を引いてみよう。法律用語の基礎知識を身につけよう	難しい文章ばかり並んでいて近寄り難い六法ですが、引いてみると、思わぬ発見があったりするものです。 六法はどうやって引くのか、そこにある法律はどのような構成になっているのか等を、実際に六法を引くという体験から学びます。	法経科 准教授 藤枝律子	高校生向け
19	消費税をどうするか	今後とも増大する社会保障の財源をどう確保するか、大量の赤字国債に支えられた日本の財政をどう再建するか、その財源として消費税増税がテーマになっています。 消費税の特徴や問題点について考えます。	法経科 教授 雨宮照雄	高校生も対応可
20	自治体財政の健全性をどう確保するか	地方財政健全化法が成立し、財政健全化を測る健全化判断比率も整備されました。 しかし、それらの比率が要求する基準をクリアすることが、即、健全な財政という訳ではありません。 三重県の市町を材料に、財政の持続可能性、健全性を考えます。	法経科 教授 雨宮照雄	
21	女性と税金・社会保障	現在の日本では共稼ぎの夫婦が一般的になってきました。しかし、税制や社会保障制度は相変わらず専業主婦モデルを前提にしています。配偶者控除、103万円（130万円）の壁、第3号被保険者、遺族年金など女性に関わる税制や社会保障制度の問題について考えます。	法経科 教授 雨宮照雄	高校生も対応可
22	伊勢商人の歴史	伊勢の各地から江戸へ進出した伊勢商人の経営は、江戸の商業史を語る時の中心です。伊勢の地域にとっても伊勢商人の存在はいろいろな回路を通じて地域性を作り出していました。 伊勢商人の歴史を語る時、どこに注目すべきなのかを考えます。	法経科 教授 茂木陽一	
23	命をめぐる近代三重県の歴史	江戸期以来の風習である墮胎・マビキ慣行が近代社会の中でどのように存続しているのでしょうか。 死産や妊産婦死亡と闘った近代産婆は、教員・看護婦と並んで働く女性の典型でもありました。 産まれてくる命、産まれなかった命をめぐる近代三重の女性がいかなる変動をくぐり抜けてきたのかを考えます。	法経科 教授 茂木陽一	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
24	東海大一揆の記憶	<p>明治9年の東海大一揆は、減租の詔勅を引きだし、その後の日本社会の枠組みを方向付けることになった日本史上最大の一揆でした。</p> <p>しかし、なぜ、地元の三重県でこの一揆の意義が語り継がれ顕彰されることがないのか、一方で「竹槍でドンと突き出す二分五厘」のイメージは架空のものなのに全国に浸透しています。</p> <p>そのイメージを作り出してきたのは誰か。記憶をめぐる歴史を振り返ります。</p>	法経科 教授 茂木陽一	
25	ささらと部落	<p>戦前の融和運動の中心人物、三好伊平次は三重県の拝田と籾の関係に注目していました。</p> <p>彼の名著『同和問題の歴史的研究』に則しながら、「えた」身分だけではない、「ささら」身分の活動をみることで三重県の部落成立の歴史に迫ります。</p>	法経科 教授 茂木陽一	
26	胎児をめぐる生命倫理	<p>人工妊娠中絶は女性の権利なのか、殺人なのか、母親の権利と胎児の生命に関わる議論と問題状況を概観し、M. トゥーリーの論理を追いながら、人間とは何か？という生命倫理学の問いかけを考えます。</p>	法経科 教授 茂木陽一	高校生 向け
27	江戸時代の百姓は米を食べていたのか？	<p>仮説実験授業の名著である板倉聖宣『歴史の見方・考え方』に則して、「江戸時代の農民は米を食べていたのか？」という疑問に答えながら、私たちにしみ込んだ歴史の見方、パラダイムの転換の可能性を考えていきます。</p>	法経科 教授 茂木陽一	高校生 向け
28	不況とケインズ経済学	<p>1929年の世界大恐慌により誕生したJ.M. ケインズによるケインズ経済学とはどのような経済学なのか、また、この経済学による経済政策とはどのようなものなのかを考えます。</p>	法経科 教授 森岡 洋	高校生も 対応可
29	ケインズ経済学と景気変動	<p>景気は好況になったり不況になったりしますが、ケインズ経済学の立場から、なぜ経済は好況になり、不況になるのかを説明し、景気変動の調整への政策を示します。</p>	法経科 教授 森岡 洋	
30	フェアトレードの挑戦	<p>貧困解決の新しい手法として近年日本でも注目を浴びつつあるフェアトレードを、世界の貧困の現状の解説を交えながら、身近な商品であるコーヒーを題材に紹介します。</p>	法経科 教授 石原洋介	高校生も 対応可
31	FTA とは何か	<p>EPPやFTAなど地域貿易協定の問題を新聞やニュースで見かけることが多くなりました。これらはそもそも何なのか、日本の経済や人々の暮らしとどのような関係があるのかを解説します。</p>	法経科 教授 石原洋介	
32	「働き方・働かされ方」について考える	<p>過労死、ワーキングプアをはじめとし、働くことに関して暗い話が多くあります。今日の働き方・働かせ方の状況はどのようになっているか、その原因はどこにあるのかを考えていきます。</p>	法経科 准教授 杉山 直	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
33	人間らしく働くこととは	1999年、ILOはディーセント・ワーク(人間らしく働く)を活動目標にしました。 「人間らしく働く」とは、どのようなことなのか、どのように現状を変えていったらよいのかを考えていきます。	法経科 准教授 杉山 直	
34	決算書の読み方(基本)	決算書は財務諸表と呼ばれ、貸借対照表や損益計算書などを指します。 本講義では、企業の公表する決算書の読み方の基本をお話します。	法経科 講師 田中里美	
35	経営分析—企業の財務諸表を使って(応用)	財務諸表を分析することで企業の状態を把握することができます。本講義では、財務諸表を実際に分析し、企業の状態を読みとります。	法経科 講師 田中里美	
36	公認会計士のお仕事と会計監査	公認会計士は証券市場に上場する企業の財務諸表を監査しています。さらに、公正な証券市場の運営のために、財務諸表を監査し、投資家に適正な情報を提供しています。本講義では、公認会計士監査についてお話します。	法経科 講師 田中里美	高校生 向け
37	時代小説は庶民をどう描いているか	山本周五郎、藤沢周平、宇江佐真理らの作品に描かれた庶民の感情を探ります。 時代小説が作り出した「江戸」の風景は、いわば現代の私たちの遙かなる故郷であり、理想郷です。その意味をさまざまな作品とともに考えます。	法経科 教授 竹添敦子	
38	文学に描かれた私たちの町	三重県は多くの文学作品の舞台になっています。実際の作品(例えば、三浦しをん「神去」シリーズ)を取りあげて、自分たちの町を文学作品から眺めてみましょう。	法経科 教授 竹添敦子	
39	昔ばなしを比べてみよう	日本の昔ばなしと西欧の昔ばなし。似ているような、似ていないような……。それぞれの文化遺産としての昔ばなしを比べてみましょう。	法経科 教授 竹添敦子	高校生 向け
40	イギリスの文学や絵画にみる死生観	「平家物語」や「方丈記」などの日本の古典文学に特に顕著な、生のはかなさや死の必然性の思索は、もちろん日本固有のものではありません。 イギリスの詩や演劇、絵画の中に現れる死生観をたどり、国や時代を超えた共通の人間の感性に触れます。	法経科 教授 村井美代子	
41	あらすじで読みなおすイギリス小説	「フランケンシュタイン」や「透明人間」、「タイムマシン」、「ガリバー旅行記」など、そのタイトルが一人歩きし、半ば固有名詞化しているイギリス小説は少なくありません。 本来のストーリーをたどると、聞き慣れたタイトルから描くイメージとは異なる小説世界が見えてくるかもしれません。	法経科 教授 村井美代子	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
42	歌を通して英詩に親しむ	<p>幼い頃に歌い、日本の歌だと思っているものの中には、百年以上前にイギリスやアメリカで生まれた歌も多く、また日本の歌詞の意味と全く違うものもあります。</p> <p>メロディになじみのある英語の歌を通して、歌が成立した背景や、英詩のリズム、韻律に触れます。</p>	法経科 教授 村井美代子	高校生 向け
43	食べ物とがんについて	<p>がんの主な原因は喫煙と食習慣で、ともに約 30% ずつを占めると言われています。</p> <p>日常の食事が、がんの発生と予防の両面においてどのように関連しているかを科学的な根拠に基づいて解説します。</p>	生活科学科 教授 伊藤貴美子	
44	「健康食品」を考える	<p>さまざまな効果をうたった健康食品の情報が、連日、メディアなどから大量に流されています。しかし、実際にはほとんど効果がないものや、却って健康を損ねる恐れもあります。</p> <p>“体によい”食品の情報を整理し、上手な付き合い方を提案します。</p>	生活科学科 教授 伊藤貴美子	
45	分子スイッチとしてのタンパクリン酸化酵素	<p>タンパクリン酸化反応は、タンパクにリン酸基を結合させる反応で、生物にとってもっとも重要なタンパクの制御機構です。</p> <p>タンパクは、リン酸化されると活性化されたり抑制されたりするので、タンパクリン酸化反応は、タンパクのスイッチとなっています。</p> <p>この反応に係わるタンパクリン酸化酵素が、ヒト細胞には数千種類あり、なかには、細胞増殖を制御し、細胞癌化に関係するものもあります。</p> <p>タンパクリン酸化酵素のはたらきについて解説します。</p>	生活科学科 教授 宇城啓至	
46	実験「DNAを見る」	<p>DNAを取り出して析出させ、白い糸状の沈殿になることを観察します。</p> <p>この実験では、ニワトリの肝臓破碎液から DNA を抽出し、エチルアルコールを加えて糸状のDNAを析出させ、ガラス棒にまきつけて取り出す作業をします。</p>	生活科学科 教授 宇城啓至	高校生 向け
47	タンパク分子をサイズで区分けする	<p>われわれのからだを構成する約 10 万種類のタンパクは、それぞれ固有のはたらきをもっています。</p> <p>そのはたらきを知るには、目的のタンパクをほかのものから分離しなければなりません。その分離法のひとつに、タンパク分子の大きさの違いを利用する、ゲル濾過クロマトグラフィーがあります。</p> <p>この方法を使って、複数の着色タンパクを互いに分離する実験を行います。</p>	生活科学科 教授 宇城啓至	高校生 向け

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
48	特定健診(メタボ健診)受診のすすめと津市の健康課題	平成20年から始まった特定健診、いわゆる「メタボ健診」。 津市では毎年約15,000名の方が受診されていますが、どの検査項目が良好で、どの検査値が要注意なのか、実際のデータ解析から分かった津市の特徴などをお示しし、健康課題について考えます。	生活科学科 准教授 駒田亜衣	
49	海外での栄養士活動	途上国で青年海外協力隊の栄養士として過ごした2年間の活動を報告します。 ドミニカ共和国と日本の違い、栄養士として活動する中で工夫した点、その他、国の様子や現地の人との生活、食習慣などについてご紹介します。	生活科学科 准教授 駒田亜衣	
50	三重県の食状況について	三重県民の食事の状況はどう変わってきたのでしょうか？これまでに実施されてきた県民健康・栄養調査の詳細な解析結果について、全国と比較しながらご紹介します。不足している食品は何か、摂り過ぎに気を付けるべき栄養素は何かなど、一緒に考えたいと思います。	生活科学科 准教授 駒田亜衣	
51	健康づくりのための家庭料理を学ぼう	近年では、家庭での行事食提供機会の減少、核家族化、食の多様化などにより、地域特有の家庭に伝わる料理が急速に失われつつあります。 地元の食材を用いた料理レシピ紹介や健康づくりのための調理実習などを通して「食の伝承」について考えます。	生活科学科 助教 飯田津喜美	高校生も 対応可
52	地域の医療や福祉のことを考える	年金や医療保険のことをはじめとして、何となく知っているけれど詳しくは分からないという社会保障について一緒に考えてみませんか？	生活科学科 教授 長友薫輝	
53	働く前に知っておきたい社会保障のこと	アルバイトなど「働く」ということを通して社会に出る、その前に知っておきたい社会保障のことを考えてみませんか？ この社会で生活する上で知っておいて損はないことばかりです。	生活科学科 教授 長友薫輝	高校生 向け
54	障がい者って誰のこと？	普段何気なく使う「障がい者」とは、一体誰のことを指すのか。 視力が悪く、コンタクトを使っている人は障がい者だろうか？「障がい者」とは？ということを確認していく作業を通して、「障がい」とは何なのか、自分が暮らす社会に存在する、障がいを持つ人を支える仕組みについて考えます。	生活科学科 准教授 北村香織	
55	社会福祉のしくみ	社会福祉は、一般的に「思いやり」や「やさしさ」という言葉で語られがちですが、社会福祉とは、「健康で文化的な最低限度の生活」を守るための、具体的な制度やサービスとして存在しています。 社会福祉のサービスや制度について、歴史をひもといたり、実際の制度を紹介したりしながら考えます。	生活科学科 准教授 北村香織	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
56	病院で「もうすぐ、退院です」と言われる前に、何をすべきか？	高齢化による医療費増加に伴って、入院期間は短縮される一方です。しかし、そのことは本人・家族が入院して初めて直面する課題となっています。スムーズな退院を実現するために、何をすべきか、事前に知っておきませんか？	生活科学科 准教授 武田誠一	
57	ソーシャルワーカーという仕事	ソーシャルワーカー（社会福祉士，精神保健福祉士）とは、どのような仕事なのか？活躍するフィールドを示しながら、その役割を詳しく説明していきます。	生活科学科 准教授 武田誠一	高校生 向け
58	生物多様性を考える	生物多様性の破壊は、地球温暖化問題と並んで、人類にとっての最重要課題となっています。震災と原発事故以降注目されることが少なくなったようですが、問題の重要さや深刻さが解消されたわけではありません。 「生物多様性とは何か」「なぜ保全が必要なのか」「何が求められているのか」といったテーマについて解説します。	生活科学科 教授 南 有哲	高校生も 対応可
59	外来生物問題の環境倫理	生物多様性を脅かす要因の一つとして外来生物問題が注目され、関連する法制度の整備や駆除の取り組みも進んできました。またこの問題は、自然と人間の関係にかかわる多様な論点を提示してくれます。外来生物問題について「環境倫理学」の観点から考えていきます。	生活科学科 教授 南 有哲	高校生も 対応可
60	住民参加とまちづくり	全国各地で住民参加のまちづくりが取り組まれており、少子高齢化や人口減少化の時代にその必要性が問われています。木造密集市街地の住環境整備と公営住宅の建替え事業を事例に、コミュニティ形成などに向けた住民主体のまちづくりの大切さについて考えていきます。	生活科学科 准教授 小野寺一成	
61	共に住まう集合住宅	家族や近隣との関係が希薄になり、子育てや介護の不安などから共に住まうことの価値が見直されています。このような集合住宅の特徴について紹介します。	生活科学科 准教授 木下誠一	
62	高齢者の住まい	高齢者の方が心身の状況に応じた住まいを確保し、生活支援や介護サービスなどを利用しながら安全で快適に暮らせる住まいについて考えます。	生活科学科 准教授 木下誠一	
63	都市型住宅のデザイン	世界の主要都市における住まいや、日本の都市型住宅の設計事例を通して、人々が集まって住むための住まいの形とデザイン手法について紹介します。	生活科学科 准教授 木下誠一	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
64	教育とは何か～教育の本質について考えよう～	学校や教師に関する話題はマスコミでも取り上げられることが多く、私たちにとって身近なものといえるかもしれませんが、しかし、そもそも教育とはどのような営みか、改めて考えることは少ないのではないのでしょうか。子どもをめぐる状況が大きく変化している今、教育について根源的な部分から考察したいと思います。	生活科学科 准教授 清道亜都子	

2014年度(平成26年度)
三重短期大学地域連携センター年報
平成27年9月

発行 津市立三重短期大学 地域連携センター
〒514-0112 三重県津市一身田中野 157 番地
TEL 059-232-2341 FAX 059-232-9647
E-mail 232-2341@city.tsu.lg.jp